

## サウジアラビア：政治・経済動向資料

(作成・文責：福田安志、2004年8月更新)

### <目次>

- 基礎データ
  - 政治
  - 財政
  - 経済
  - 石油
  - 最近の経済・政治動向
  - 略史年表
- 

### <基礎データ>

人口	2450万人(2004年央、推定) 内サウジ人1780万人(73%)、外国人670万人(27%)
国土面積	215万平方キロ(日本の約5.7倍)
首都	リヤド(ただし、国王は1年のうち約半分はジェッダで過ごし、その期間ジェッダが政治の中心になる。)
宗教	サウジ国民はイスラーム教徒100% (内ワッハーブ派を中心とするスンニー派が大部分を占め、シーア派は4-6%)
国祭日	9月23日(建国記念日)
通貨	サウジアラビア・リヤール(SR、1SRは3.745米ドル)
GDP	2080億ドル(2003年)
一人当たりGDP	8800ドル(2003年) (自国民一人当たりGDPは1万2000ドル)
時差	GMT(グリニッジ標準時) - 3時間、日本 + 6時間

### <政治>

元首	Fahd ibn Abdul Aziz al-Saud (称号は国王 Malik、1923年生まれ)
皇太子	Abdullah ibn Abdul Aziz al-Saud (国王の異母弟、1924年生まれ)
権力構造	王制。国王中心の政治。国王は首相、国軍最高司令官を兼任。 多数の王族(サウード家)が政府要職に任じられているが、石油や財政・経済関係はテクノクラートを中心に運営されている。
憲法	国家基本法で「コーランとスンナが憲法」と規定。
法体系	国家基本法(1992年発布)、イスラーム法、勅令などで構成。
議会制度	諮問評議会(Majlis Shura、1993年設立)が設置されている。 (ただし、議員は国王の選任、立法権はなく、諮問機関的な性格)
政治動向	ファハド国王は病弱で高齢。現在、日々の政務はアブドゥラー皇太子を中心に執り行われている。

内政上の課題	政治体制の改革(民主化問題)。 アル・カーイダなどのテロ対策。 王位継承問題。 財政と経済の石油依存脱出。 失業問題とサウジ人若年層への雇用機会の創出。 非石油分野の工業化。
女性の政治・社会参加	女性の諮問評議会議員はいない。大臣等の政府要職には女性はいない。 女性の自動車運転は認められていない。

< 財政 >

財政動向のポイント

原油価格上昇	原油価格高騰で石油収入が急増。
多額の累積債務	累積債務額は 1600 億ドル(2004 年央、推定)。

予算・決算(単位：億)

	2002 年度(1/1-12/31)	2003 年度(1/1-12/31)	2004 年度(1/1-12/31)
歳入	SR1570(\$419)(予算) SR2140(\$571)(決算)	SR1700(\$454)(予算) SR2950(\$788)(決算)	SR2000(\$534)(予算)
歳出	SR2020(\$539)(予算) SR2222(\$593)(決算)	SR2090(\$558)(予算) SR2500(\$668)(決算)	SR2300(\$614)(予算)
収支	- SR450(- \$120)(予算) - SR82(- \$22)(決算)	- SR390(- \$104)(予算) SR450(\$120)(決算)	- SR300(- \$80)(予算) +\$298(7 月 SAMBA 推定)

< 経済 >

経済動向のポイント

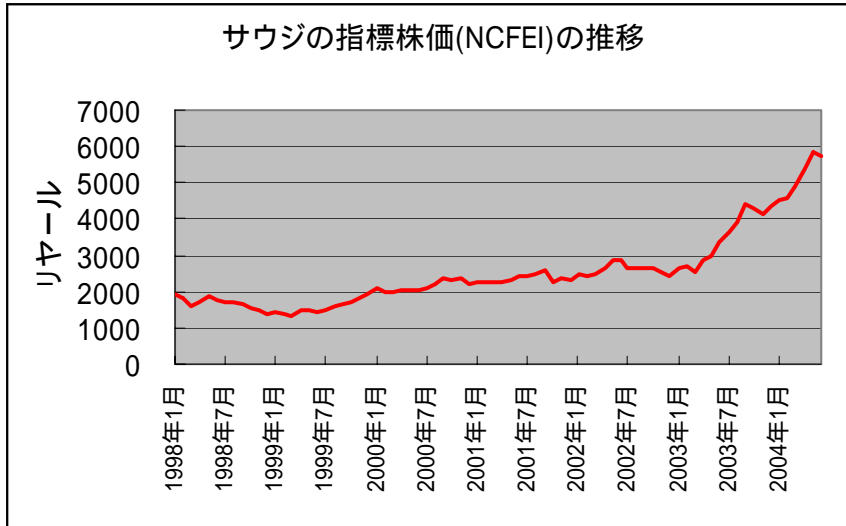
石油収入の増加	石油収入の急増、海外投資資金の国内還流で国内経済は好況、バブル化の恐れ。
失業率の増加	15 歳以下の若年層が人口の 40%を占める。失業率は増加中。 失業率(2004 年)：15%(推定)、(労働省発表は 9.6%、SAMBA は 13%と推定)。
労働力サウジ化	労働力のサウジ化を推進中であるが、民間分野での進みは遅い。
WTO 加盟問題	WTO への加盟を申請中であるが、加盟は未だ実現していない。 (加盟の目的は外資の投資促進と石油化学製品の輸出促進)
民営化	民営化を推進中であるが、反対の動きもあり、その進捗は遅い。
インフラ整備	電力と水が不足。発電、海水淡水化プラントの建設の必要あり。

日本の対サウジアラビア貿易

	輸出 (単位 1000 ドル)	輸入 (単位 1000 ドル)	前年同期比増減(%)		日本の貿易総額に占めるシェア(%)	
			輸出	輸入	輸出	輸入
2003 年	3,712,927	14,505,135	-1.3	24.8	0.8	3.8

出典：JETRO 貿易統計

指標株価(NCFEI)の推移



<石油・ガス>

原油埋蔵量	原油確認埋蔵量：2617 億バレル(2000 年末)(現在の生産水準で可採年数約 80 年)。世界の埋蔵量の 4 分の 1 を占める。 内 Ghawar 油田(世界最大の陸上油田)が 700 億バレル。
原油生産能力	1050 万 b/d
原油生産コスト	1b/d 当たり約 1.5 ドル
原油の国内消費	130 万 b/d
石油精製能力	183 万 b/d
ガス埋蔵量	224 兆立法フィート
石油関連産業	原油の生産と精製は Saudi Aramco 中心。 石油化学製品の製造は SABIC 中心。
石油・ガス政策	軽質油を中心に生産能力を増強する。 石油化学製品の輸出を拡大する。 原油に代わりガスの生産と利用を拡大する。 ガス部門については、部分的に外資の導入を進めている。

原油生産量(万 b/d)

2001 年	2002 年	2003 年	2004 年					
平均	平均	平均	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月
796	755	879	865	860	840	830	850	910

出典：MEES.

<最近の内政動向>

- 2003-01 政治改革を求める改革派の請願書、アブドゥラー皇太子宛に提出。
- 2003-01-22 アブドゥラー皇太子は請願書署名人 36 人と会談。
- 2003-04-30 政治改革などを求めるシーア派の請願書
- 2003-05-12 リヤードで自爆テロ。7 人のアメリカ人を含む 34 人が死亡。
- 2003-06-15 リヤードで「知的対話のための国民会議」開催。
- 2003-09-02 アブドラ皇太子はロシアを公式訪問。
- 2003-09 政治改革を求める第 2 の請願書。
- 2003-10-13 サウジ閣議、地方議会に選挙を導入することを決定。
- 2003-11-08 リヤードで自爆テロ。死者 18 人。
- 2003-11-29 シューラー評議会法の改正。評議会の法案提出権が強化。
- 2003-12 政治改革を求める第 3 の請願書。
- 2003-12-27 メッカで第 2 回「知的対話のための国民会議」開催。
- 2004-02-21 政治改革を求める第 4 の請願書。
- 2004-02-26 サウジではじめての独立した人権組織が発足し、会合。
- 2004-03-16 政府、改革派の中心人物 13 人を逮捕。
- 2004-04-21 リヤードの内務省庁舎前で自爆テロ。
- 2004-05-01 ヤンプーで銃撃テロ。米英人ら 5 人死亡。
- 2004-05-29 アル・ホバルでテロ。外国人ら 50 人が人質に。
- 2004-06-12 第 3 回目の「国民対話会議」がメディナで開催。
- 2004-07-10 サウジ政府、13 州で 178 の地方都市評議会の選挙を実施すると発表。

<略史年表>

- 1902 年 アブドル・アジーズがリヤード奪回。サウード朝再興。
- 1932 年 国名をサウジアラビアとする。
- 1933 年 Standard Oil of California(SOCAL)が東部州の石油利権を取得。
- 1938 年 コマーシャルベースでの原油生産始まる。
- 1948 年 SOCAL、TEXACO など 4 社が統合し ARMCO を設立。
- 1953 年 アブドル・アジーズ国王死去。サウード国王即位。
- 1957 年 山下太郎氏サウジ政府と中立地帯での石油利権調印(アラビア石油)。
- 1964 年 サウード国王廃位。ファイサル国王即位。
- 1968-69 年 反国王分子大量逮捕。
- 1971 年 ファイサル国王訪日。
- 1973 年 第 4 次中東戦争に際しファイサル国王は石油戦略を発動。  
\* 三木特使のサウジアラビア訪問。
- 1975 年 ファイサル国王暗殺。ハーリド国王即位。
- 1979 年 メッカ事件。(アル・ハラム・モスク占拠事件)  
東部州でシーア派の暴動発生。
- 1980 年 イラン・イラク戦争開始。
- 1981 年 GCC の結成。
- 1982 年 ハーリド国王死去。ファハド国王即位。
- 1986 年 ヤマニ石油相解任。後任はナーゼル(前企画相)。
- 1988 年 イラン・イラク戦争終結。
- 1990 年 湾岸危機発生。

- 1991年 湾岸戦争。
- 1992年 国家基本法、シュールー議会法、地方行政制度法発布
- 1993年 シュールー議会開設。
- 1994年 各州議会の開設。  
ブライダ事件発生。
- 1995年 ナーゼル石油相解任。後任はヌアイミー(前アラムコ総裁)。  
リヤードで爆弾テロ事件。アメリカ人5人、パキスタン人1人が死亡。  
ファハド国王が脳溢血で倒れた。
- 1996年 ホバルで米軍に対する爆弾テロ事件。  
\*外国人不法滞在者の帰国キャンペーンが行われ、39万9,815人が帰国。  
\*イランのラフサンジャニ元大統領のサウジアラビア訪問。
- 1998年 アブドゥッラー皇太子が米国、日本などを公式訪問。
- 1999年 ハタミ・イラン大統領のサウジアラビア訪問。
- 2000年 日本のアラビア石油の中立地帯での利権は2月27日まで。翌日失効。
- 2001年9月11日 アメリカで同時多発テロ発生。

(以上)